

平成 30 年度 大阪府立むらの高等支援学校 第一回 学校運営協議会記録

日 時：平成 30 年 7 月 2 日（月）15：00～17：00

司 会：教頭

出席者：学校運営協議会委員【出席 5 名 欠席 1 名】

大阪国際大学（教授）、㈱エルアイ武田（人材開発室 室長）、
大阪知的障害雇用促進建物サービス事業協同組合（事務局次長）、
枚方市村野区（区長代理）、本校 P T A（会長）、
北河内西障害者就業・生活支援センター（センター長）【欠席】

校長、事務局（10 名）

1 資料の確認および次第説明（教頭）

2 校長挨拶

この 4 月より着任した。6 月 18 日に発生した地震の時、生徒は登校中で対応に苦慮した。本校には学校携帯を含め、計 7 回線の電話があるので、連絡網を整えていきたい。3 月には第 1 期生が卒業した。就職率は 86%と高い。教員がアフターフォローのため進路先を訪問しているが、今のところ離職した卒業生はいない。今年度は開校から 3 年たち 2 クールめとなる。良いことは継続し、見直しが必要なことは検討していきたい。

3 委員紹介、委嘱状交付（教頭）

4 事務局員紹介（教頭）

5 学校運営協議会設置要項・学校運営協議会運営計画について説明（教頭）

今年度より名称が学校運営協議会となり、承認や意見をいただく場となる。
委員の中より大阪国際大学（教授）を会長として選出した。
併せて㈱エルアイ武田 人材開発部室長を副会長として選出した。

6 報告

① 意見書の提出、傍聴希望はなし。

② 平成 30 年度学校経営計画について（校長）

中期的目標を多少変更したが、大きな改訂はない。

今年度取組みの重点は

・シラバスに基づいた授業 ・自立活動の時間等を使った課題の解決
・外部人材の活用 ・共生推進教室との連携 ・カフェを中心とした交流
・経験の浅い教員への支援 ・首席 2 名体制の活用 ・時間外勤務の削減
等である。

③ 平成 30 年度授業時間割・教育課程について（教務部長）

教育課程、校時等の変更はない、

本校の特徴は1時間めに毎日30分間「自立活動」の時間を設定し、個々の課題に取り組んでいる点である。

④ 進路指導の取組み及び第1期卒業生の進路状況について（進路指導主事）

1年の早い時期から職場実習に取り組み、3年では進路先決定に向けて、随時実習を行った。

進路先は懇談を重ねて、本人・保護者の意向に沿ってすすめていった。

就職者はハローワークと就業センターに登録、進路先で移行支援ケース会議を設定し、引継ぎを行った。今のところ離職者はいない。今後も就業センターなど関係機関と連携し定着支援を行っていきたい。

⑤ 授業参観アンケート（学校評価）集計結果について（支援部長）

提出枚数は少なかったが、概ね好意的な意見をいただいた。

就労につながる授業の取組みに対して、一定の評価があった。

校内の清掃は数件意見があり、課題である。

今後は教員間で参観する公開授業週間を予定している。

授業の構造化、視覚的な支援などすすめていきたい。

⑥ 平成30年度採択教科書紹介および平成31年度採択教科書選定状況について（教務部長）

生徒にとってわかり易い、バランスがよいなど、どの教科も共通した目的で選定している。

展示しているので、閲覧してほしい。

7 協議

会長：報告がたくさんあった。「経営計画」について協議していききたい。

まず、6月18日の地震後、安全対策をどう行っているか。

校長：地震発生時、通学中の生徒が多く、連絡がつかない状態になった。

電話は、学校携帯を含めて7回線に増やしたので、連絡手段、休校のマニュアルなど検討していききたい。

会長：学校の対応で気づいたことなどあるか。

委員A：子どもは電車の中にいて、本人からラインで連絡を受けた。

緊急時はラインが有効だったので、スマホを活用できればよいのでは。他の高等支援学校の保護者と話をした時も、緊急時の連絡方法に不安があった。PTAでは防災グッズの取組みを行っているが、皆改めて重要性に気づいたのではないか。

委員B：地域の避難所では避難してきた人は数人だった。今後は地域の避難所についても検討しなければいけない。

委員C：2月の学科発表会を見て感動した。ぜひ続けてほしい。

以前、初任の教員が障がい者雇用をしている企業で研修を行っていたが、今後はどうか。

校長：進路担当が、卒業生の進路先を順次訪問している。また教員の取組みとしては、7月のPTA主催施設見学会に初任者も参加する。

委員C：学校で振り返りはしないのか。実習後の家庭での様子はどうか？

事務局：実習時には日誌のコメント欄に記入してもらっている。また、懇談時には必ず実習について本人、保護者と話をして振り返り、課題を確認している。

会長：保護者も振り返りをすると、生徒は認めてもらい自己肯定感が高くなる。次へのステップとして大事にしてほしい。

委員D：目標、アセスメントについて何か工夫はあるか。

校長：複数の教員で協働して目標をたてている。PDCAサイクルを意識している。

委員D：学校が4年めになるが、カリキュラムなど変更の予定はあるか。

校長：MURANO キャリアプランについて、必要があれば修正はするが、大きな変更の予定はない。2020年の学習指導要領改訂に向けて、検討していきたい。

委員D：福祉関係の法律で、定着支援制度が3年間になり、福祉施設を利用して就職した人は利用できるようになった。学校卒業後すぐに就職した人の定着支援はどうか。

事務局：卒業後、定着支援に関わってもらおう就業センターには在校中に登録し就職が決まれば進路先の企業で移行支援ケース会議を行うなど引継ぎを行っている。卒業後は進路担当や旧担任による職場訪問や同窓会を実施、平日休みの人は天の川カフェに来て話をすることをすすめるなど、状況を把握するようにしている。

会長：定着支援は、地域での連携も含めて、ゆるやかなつながりの支援も考えてもらいたい。

委員E：地域連携としてカフェはオープンしているが、限られた人しか利用していないのでは。地域への働きかけを頑張ってもらいたい。

校長：近々地域の集りがあるので、カフェのちらしを配付したり、回覧板をまわすなど広報したい。

会長：カフェの利用状況はどうか。

事務局：昨年度から開店日が増え、金曜日は一日開店している。地域の方にも来店してもらいやすくなったので、アピールしていきたい。

会長：高等支援学校5校での連携はあるのか。

校長：生徒は支援学校全体のスポーツ大会がある。教員は教務部が高等支援だけで会議を持ち連携している。高等支援学校長の集まりも実施する予定である。

会長：保護者の立場から、取組みの要望はあるか。

委員A：他の高等支援学校のPTAより、進路先の共有をしてほしい、と要望がある。働くには体力が必要なので、スポーツ大会への参加などすすめてほしい。生徒間でゆるいつながりができるよう希望する。

校長：先日のお阪ID陸上競技大会には7名出場し、生徒は成果をあげていた。アビリンピックでは喫茶、オフィスアシスタント部門に9名が出場予定。皆、目標に向けて頑張っている。

会長：色々なことに取り組み、場所を変えて発表することは大切。

働き方改革で時間外労働が昨年比－13%ときいたが、校長としての考えを教えてください。

校長：本校は、授業準備などで時間外勤務が多い。毎週木曜日には「早よかえろうデー」を設定している。見える化としては、時間外勤務を「前年度比較表」にして毎月配付し、意識してもらうなど少しずつ取り組んでいる。

会長：超過勤務は大きな課題である。ぜひ管理職を中心に特定の人に業務が偏らないように調整してほしい。授業アンケートについて、当日の参観者は多いが、アンケートが集まらないのはなぜか。

事務局：アンケート用紙をあらかじめ配付しておくなど検討したい。

会長：アンケートの数が増えるよう工夫してほしい。各委員から意見をたくさんいただいた。改善できるところは取り組んでほしい。

8 校長挨拶：本日はたくさんの意見をいただいた。お礼を申し上げたい。
いただいた意見を参考にして、むらのをよりよくしていきたい。

9 事務局より（教頭）

記録をまとめるので確認していただき、ホームページにアップする。
次回は10月30日（火）、懇親会も予定している。

10 閉会（教頭）